

●発行月 令和4年6月  
 ●発行 岩手県立中央病院 地域医療福祉連携室 〒020-0066 盛岡市上田1-4-1 TEL 019-653-1151 (代)  
 ●URL <https://chuo-hp.jp/>

### 「地域医療連携推進の基本方針」

1. 顔の見える連携
2. 地域連携パスと逆紹介の推進
3. 紹介患者の迅速予約と優先診療
4. PHSによるDr.Direct Call
5. 24時間救急受け入れ体制
6. 地域医療福祉連携室を通じた地域包括型連携の推進
7. 高額医療機器の共同利用推進
8. 地域医療研修センターの利用の推進

## 放射線診断科のご紹介

放射線診断科長 及川 茂夫

いつもお世話になっております。今回は「放射線診断科」について紹介させていただきます。

病院開設時より存在した診療科としての「放射線科」は、業務の専門性・多様性により、現在は、「放射線診断科」と「放射線治療科」に分かれて診療にあたっております。

我々放射線診断科の基本業務は、最新の診断装置を用いた画像診断(CT、MRI、PET・核医学検査の読影)とインターベンシヨナルラジオロジー(IVR:画像誘導下で行う局所治療・検査)です。また、県内のいくつかの医療施設とデジタル画像を用いた伝送(遠隔地画像伝送)システムも構築し、読影レポートを提供しています。当科の医師は常勤医4名と非常勤医4名で構成されており、全員が放射線診断専門医(放射線被ばくの安全性と防護、MRIの安全性、各種画像の特性と適応、画像診断に必要な画像解剖や病理、画像診断報告書作成等)についての専門教育を受けて認定された医師)の資格を有しています。この人員で、5台のCT(年間検査数約35,000件)、2台のMRI(同8,200件)、PETを含めた核医学検査(同1,200件)で撮像される全ての画像の読影を担っております。症例は、高度急性期医療を推進する当院の特徴を反映して、救急を主体とした急性疾患や種々の悪性疾患の割合が高く、また極めて専門的な画像作成の要望も年々増加しています。

IVRに関しては、院内の多くの診療科からの依頼で、年間約200件を施行しています。主な内容としては、肝細胞癌等の悪性腫瘍の化学塞栓術、大動脈ステントグラフの留置時あるいは留置後の血管塞栓術、外傷出血等に対する緊急塞栓術が挙げられます。最近ではCTガイド下での膿瘍ドレナージや生検等の非血管系の手技も増加傾向にあります。検査室やIVR室には、放射線診断医の検査指示書に基づいてそれぞれの診断機器の特徴を熟知し的確に操作してくれる診療放射線技師と患者さんの案内や保護を担当してくれる看護師が必ず配置されており、我々の部門は多職種の連携、協力のもとに成り立っています。

さて、HP等でもご案内させていただいておりますように、地域



医療支援病院である当院では、その基本方針の一つとして、「高額医療機器の共同利用促進」を掲げています。

ご参考までに、表に過去3年間に他施設より検査紹介をいただいた医療機器別の件数と紹介元の総数を示します。

表 院外の医療機関からの画像検査紹介の内訳

	CT	MRI	核医学	PET	検査計	紹介元総数
2019年度	203	131	44	30	408	48
2020年度	179	92	57	30	358	44
2021年度	178	114	48	14	354	34

今年度は待望の3テスラMRIが導入予定であり、すべての領域でこれまでの装置よりも詳細な画像を提供できます。また、冠動脈疾患等の検出に優れた320列CTやがんの診断に欠かせない機器であるPET/CTも従来までと同様に充実しています。画像検査のご予約・お問い合わせ等は地域医療福祉連携室が窓口となっておりますが、必要に応じて放射線部門のスタッフも対応いたします。ぜひご活用ください。院内の検査数が多いため、ご指定の日時での検査が困難な場合もありますので、ご予約の際はいくつかの候補日をあげていただければ幸いです。

現代の医療の中で画像診断の占める役割は益々大きくなっています。画像診断は病変の存在を明らかにする目的のみならず、治療方針の決定や治療後の経過観察等になくはならないものです。

我々は、これらの高性能の機器を駆使して現在考えられる最も高いレベルの画像を作成し、正確に診断することによって、患者さんに良質な医療を提供することを最大の目的として診療に励んでまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

NEW

# 令和4年度 新任医師紹介

よろしくお願いいたします。



産婦人科長  
おぼら ごう  
小原 剛



腎臓・リウマチ科医長  
せき ゆみか  
関 由美加



腎臓・リウマチ科医長  
まつうら ゆうき  
松浦 佑樹



放射線診断科医長  
なかやま まなぶ  
中山 学



消化器内科医長  
たなか ゆう  
田中 裕



内視鏡科医長  
さとう いたる  
佐藤 格



消化器外科医長  
ふくおか けんご  
福岡 健吾



消化器外科医長  
おのでら ゆう  
小野寺 優



整形外科医長  
そぎ やすひと  
曽木 靖仁



呼吸器内科医長  
ちば しんじ  
千葉 真士



呼吸器外科医長  
やまだ たけひろ  
山田 剛裕



小児科医師  
かくた りょう  
角田 亮



小児科医師  
すずき としひろ  
鈴木 俊洋



小児科医師  
かいのう あきら  
戒能 明



糖尿病・内分泌内科医師  
おのでら けん  
小野寺 謙



精神科医師  
ないき わかこ  
内記 和歌子



循環器内科医師  
あんざい じゅん  
安齋 潤



循環器内科医師  
こまる こうへい  
小丸 航平



整形外科医師  
いずみ ふみこ  
鯉淵 迪子



整形外科医師  
うえはら としや  
上原 俊也



整形外科医師  
さとう かい  
佐藤 佳衣



形成外科医師  
すがわら りゅうじろう  
菅原 隆二郎



皮膚科医師  
ふるかわ まいこ  
古川 真衣子



皮膚科医師  
よしおか わかこ  
吉岡 和佳子



麻酔科医師  
たなか あみ  
田中 亜美



麻酔科医師  
さとう はるか  
佐藤 陽香



脳神経外科医師  
はやし てつや  
林 哲哉



血液内科医師  
あさの かずや  
浅野 雄哉



腎臓・リウマチ科医師  
いしがき しゅん  
石垣 駿



泌尿器科医師  
きくち だいち  
菊池 大地



消化器外科医師  
まるやま ひろき  
丸山 大貴

# 必要とされる臨床検査技術科を目指して



当院の臨床検査技術科には臨床検査技師43名、検査補助員5名が在籍し、24時間体制で日常検査及び緊急検査に対

応しております。主要な自動分析装置は複数台備わっており、故障や保守点検時でも患者さんへの影響が最低限で済む体制を構築しています。私達が担当する領域は多岐に渡り、生化学・血液・尿などの検体検査、安全かつ適正な輸血療法を主導する輸血検査、院内感染対策・抗菌薬適正使用における重要な役割を担う細菌検査、細胞診・術中迅速標本作成や解剖補助にも対応する病理検査、各種超音波検査・心電図・脳死判定における脳波測定などの生理検査があります。認定資格などの取得も積極的に推進し細胞検査士・超音波検査士・認定輸血技師など多くの資格を所有する技師が在籍しています。チーム医療の一員として、医師や看護師からの依頼や要望に迅速に答えられるよう努めています。

2017年からは医師のタスクシフトの一環で造血幹細胞移植を検査技師が調製するようになりました。年間約20件の調製を行い、患者さんの病態管理の一部を担っています。2019年12月には当院でも生体腎移植がスタートし、手術前後の検査にも多く検査技師が関わっています。検体検査部門では免疫抑

剤の血中濃度測定を行い、生理検査部門では心電図や心エコー、血管内皮機能検査を行っています。

また、病理検査部門では移植後の拒絶反応の有無を確認するために定期的に腎生検を行っています。

そして、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、院内では早期から各種PCR検査や抗原検査にも対応し、一日平均60件、最も多い時期では一日に約200件の検査が行われました。医療の多様化に加えて、出口の見えない新型コロナウイルス感染症の流行のなかで、業務内容も大きく変化しています。今後も、私達臨床検査技術科に求められる役割を果たすため、臨床検査技術科一丸となって対応していきたいと思っています。

写真にある「和顔愛語」は、当検査科に所属する当院参与の野崎英二先生（元循環器内科医）によって書かれた作品です。先生は書道の能筆家でもあり、日頃から検査科運営に携わっていただいております。



我々スタッフ一同、この書のような“和やかな顔と

思いやりの言葉”で患者さんに接し、業務に努めて参りたいと思います。

臨床検査技師長  
佐藤了一

